

南足柄市及び箱根町を中心とする箱根山地周辺の 自然災害に関する気候変動影響

神奈川県では、県内各地域の気候変動による影響について、潜在的なニーズや課題を明らかにするため、地域の関係者（ステークホルダー）へのヒアリング等による調査を行っています。

令和4、5年度は、南足柄市及び箱根町を中心とする箱根山地周辺で自然災害に関する気候変動影響について調査を行いました。

<調査の流れ>

ヒアリング調査

調査対象地域で活動する業界・市民団体、事業者、行政などに対してヒアリング→観光業やインフラ整備などに関係する21の個人・団体を対象にして実施。

分析

ヒアリング記録を分析し、調査対象地域において関心の高い気候変動影響などを見える化。

ステークホルダー会議

ヒアリング調査対象者に分析結果をフィードバック。また、関連する専門家による話題提供や参加者間での意見交換を実施。

幅広い分野の関係者が感じている気候変動影響等

台風・大雨

【ヒアリングでの発言の例】

- ・台風が大型化し、ゲリラ豪雨が増えている。
- ・令和元年度台風の被害で経済消費が落ち込んだ。
- ・皆伐後に大きな台風がくると、土砂崩れの可能性が高まるのでは。

【専門家の知見】

(横浜国立大学総合学術高等研究院台風科学技術研究センターセンター長、教育学部教授 筆保 弘徳氏)

- ・台風は、進路予測技術の向上や治水対策により死者は減ってきたが、他の災害に比べ頻発し移動するので、経済的損失が大きい。
- ・1900年以後、台風の上陸数は大きく変わらないが、勢力の強い台風の上陸が増加傾向にある。
- ・「台風ソラグラム」により、台風の進路や地形により異なる地域別のリスクが把握できる。
- ・気象庁データを活用し、県内学校を対象としたピンポイント気象予報を提供している。

シカ

【ヒアリングでの発言の例】

- ・冬に死んでいたシカが生き残ることで増えている。
- ・下草がシカの食害を受け、森が裸地化し、土砂崩れリスクが増える。
- ・シカとともにダニやヒルも増える。

【専門家の知見】

(株式会社野生動物保護管理事務所 森 洋佑氏)

- ・箱根では1990年代、北側（丹沢・富士山）と南側（伊豆半島）からシカが入り、現在も増加傾向にある。現在は一部で丹沢と同程度の密度。
- ・食害による土壌流出で根が露出している場所が見られ始めている。
- ・シカの食害により植生は単純化し、植物に依存した生活を送る虫などその他の生態系にも影響する。
- ・箱根は、シカ防護柵の設置により植生が回復する力は残っている。
- ・シカ管理のため、行政や民間団体を含む協議会が計画を策定した。

その他の発言が多かった気候変動影響等

【地域、自然】

- ・自然があつての箱根、四季があつての箱根
- ・自然とともにあるということは、自然の怖さと背中合わせ

【防災】

- ・避難所は、暑さへの対応が必要になってきている
- ・観光客まで含めた避難を考えていないのではないか

【茶、農家】

- ・茶は、防霜ファンの普及等により、霜の被害が減っているようだ
- ・ミカンの木の花のいたみが昔より激しい

【湖、水の管理】

- ・水温が上がると冷水性のマス類が湖に適応できなくなるのではないか。
- ・濁水で芦ノ湖の水位が下がり、観光船の船体検査ができなかった

【雪、雨】

- ・数年前にドカ雪があつたが、その後は降っていない。
- ・観光にとっては、雨が降らないのはいいこと

【行政との関係】

- ・将来計画については国の動きを注視しながら見直す
- ・里山保全の資金は県の補助金だが必ずしも十分ではない。

全体のまとめ

- 令和元年度台風の被害の記憶が新しく、台風や豪雨などの気象災害への関心が高く、観光、インフラ、山の保全等への影響を懸念する声がありました。
- また、シカの増加への関心も高く、食害による裸地化が台風等による山の土砂災害リスクに影響することや、ヒル等の二次被害の増加が懸念されていました。
- 箱根山地では、自然環境が重要な観光資源であり、生活にも密接に関連することから、今の自然環境を将来世代に引き継いでいくことが望まれていました。
- 地球温暖化の進行に伴い台風の被害やシカの影響が拡大することや、その他の社会環境等の変化も関与し、今後箱根の自然環境が損なわれることへの懸念があります。
- 箱根地域で気候変動問題を自分事化し将来に備えるには、共通して関心の高い台風やシカなどの話題をきっかけとして意見交換したり、情報、課題を共有したりすることが有効と考えられます。

神奈川県気候変動適応センターでは、この調査結果を参考にして、効果的な情報発信等を進めていきます。